



バラバラがいい時もある

朝日小学生新聞の夏休み特集で毎週日曜日に「あのひとのこども語」と題する池上彰・小島よしお・横澤夏子・武田真一・平野レミ・松井ケムリの6人の方のコラムが掲載されました。そのワークシートの作問依頼が新聞社から急にきたのが夏期講習のさなか。これまでの「天声こども語読解問題」は全国の塾に配信されるだけだったのが、今回は紙面のQRコードを読み取ると全国の一般読者も利用できます。何とか6本を仕上げられてほっとしています。

さておもしろい研究があります。横断歩道を多くの人たちが向かい合って歩くと、だれかが指示したわけでもないのに、いくつかの列が自然とできます。このように歩行者同士がお互いに影響し合うことで、全体としてなめらかな流れがどう形成されるのかを実験したのです。すると個人がバラバラの足並みで歩いた方がむしろ、列の流れが壊れにくく、しなやかだという結果でした。バラバラに動いていることが個々の自由さや多様性を生み出し、全体としてのまとまりがよくなる例を人間で実証できたのだそうです。逆に個人個人の多様な揺らぎを消し均質にして制御しようとする、想定していないような場面で非常にもろくなるとのことでした。

塾の場合はどうでしょう。受験を控えた中3の講習授業などは入試に出そうな問題の解説や時間配分などのアドバイスを一斉に行った方が効率的です。しかし定期テスト対策の時は学校によって時期も範囲も違うので、個別に指導する方がいいのです。そうでなければ集合授業の塾での“テスト前日なのに一斉に予習をしている”ことが起きてしまいます。すでに学校で習ったことでも、理解度がかなり違っている場合もそうです。またマンツーマンの個別指導では、わからなそうな顔をしているとすぐに待ち構えていて教えてくれる先生が隣にいます。けれどもそれに慣れてしまうと、自分の頭で考えようとする力が育ちません。この塾で講習は集団授業、通常は個別進度学習をしているのはそういう理由です。そしてこれからもそれぞれが多様な能力を発揮できるよう応援していきます！